

プレスリリース

日本画の領域から注目を浴びる若手作家。 郷さくら美術館「桜花賞」受賞／栃木県立美術館「日本画のゆくえ」に参加 等。
2022年度、神奈川県民ホールギャラリーで多彩な現代作家たちの参加する大型グループ展へ参加決定。



山寄雷蔵 個展

宝島 -upaya-

Raizo Yamasaki TAKARAJIMA -upaya-

2022年4月19日(火) - 5月8日(日)
13:00~19:00 月曜休廊

【EVENTs】 要予約制・定員あり。一部有料。

●4/23(土) 17:00~18:00

[クロストーク] 「画材から読み解くアーティスト思考」
ゲスト：小島暁夫(株式会社小島美術代表)

●4/29(金・祝) 10:00~12:00

[ワークショップ] 「日本画体験！自分だけの宝石/宝島」
講師：山寄雷蔵

●5/7(土) 16:00~18:00

[クロストーク] 「夢と宝島」

ゲスト：中野仁詞(キュレーター/公益財団法人神奈川芸術文化財団)

※イベント開催中はご予約のお客様を優先的にご案内します。

ステートメント

「宝島とは夢であり、方便だ。人は縛られているが故に、宝島を求めずにはいられない。」

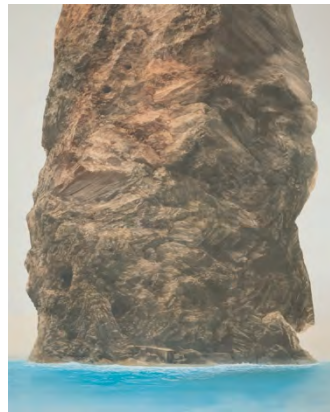
(山嵯雷蔵)

山嵯は近年一貫して巨大な岩石島をモチーフとして描いて来た。前シリーズ《earthbound¹》では「日常の重力」とでも呼ぶような、社会的・肉体的に大地に縛られている矮小な人間の様を諦念的な視点で示した。しかし此度画面に出現した岩石島を、山嵯は「宝島」と名付け、未知の可能性が秘匿された希望の島として示した。「僕たちは今ここに立つ理由や、自身の歩みに行き先を欲するが故に、夢や希望、可能性の象徴として宝島を必要とする。いや、せざるを得ない。なぜなら宝島がないと僕たちは窒息するから。」山嵯のこの言葉からは、自身を縛る「日常の重力」と、夢や願いといった「不確定な可能性」がメビウスの輪のように繋がるトポロジカルな思想が窺える。

今展示では、前シリーズ《earthbound》で示されてきたいわば「日常の重力」と、新シリーズ《宝島》に託された「夢や願いの必要性」とを並置することで、日常における複数の位相と、それを行き来しながらなんとしてでも生きようとする人間の有様を浮かび上がらせる。観る者は、「宝島」と名付けられたある種の「方便(=Upaya²)」に導かれながら、比喩としての宝島が表さんとするものの正体、あるいは、宝島を見つめる自身が立つ大地そのものについて、想像を巡らすことだろう。



《Earthbound #3》 2018年



《宝島 #3》 2021年

¹ Earthbound

[形容詞] 1 〈根など〉地に固着している。 2 〈動物・鳥など〉地表から離れられない。(例：an earthbound bird 飛べない鳥) 3 世俗にとらわれた、現世的な; 想像力のない、散文的な。

² Upaya 〈英語訳〉方便 (例：He said, "Lies of Buddha are upaya. 曰く、『仏のうそは方便という。』) 〈インドネシア語訳〉努力, 試み

Upaya (サンスクリット語：उपाय upāya、「便宜的な手段」または「教育学」) は、大乘仏教の用語で、目標に到達、または導くものを指します。本質的に弁証法の仏教用語です。この用語は、kaushalya (कौशल्य、カウシャリヤ「賢さ」) においてよく使用されます。 upaya-kaushalya (ウーパヤカウシャリヤ) は、大まかに「方便」を意味します。ウーパヤカウシャリヤは、修行者が、苦しんでいる人々にダルマ(法・徳)を紹介するために、独自の方法や技術を使用することが可能だと強調する概念です。技法や展望などが最終的に最高の意味での「真」でなくても、仏教の実践者を真実の実現に近づけるのに適切な実践であろう、ということの意味します。技術の行使、つまり自分のメッセージを聴衆に適應させる能力は、パーリ仏典において非常に重要です。(参考：米国 Wikipedia)

キーワード／参考作品

注) この頁に掲載されている作品は本展への出品が確約しているものとは限りません。

- 自然への尊敬と畏怖。人為の儚さ。長崎や世界の歴史が作家に与える影響。
- 確かな技術力。これは日本画か。空想的だけど現実的。
- 日常が作家にもたらした「夢」の必要性とは。



①



②



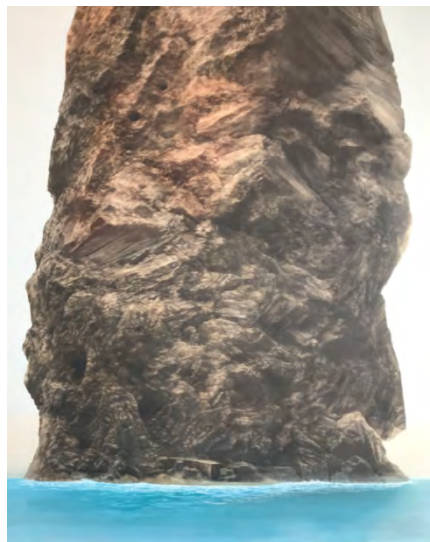
③



④



⑤



⑥

- ① 《巖啼く》
2020年 194×112cm
石膏地着彩
- ② 《深紅の刻》
2020年 33.3×24.2cm
石膏時着彩
- ③ 《哀哀碧海》
2021年 162×130.3cm
石膏地着彩
- ④ 《晨》
2020年 45.5×53cm
石膏地着彩
- ⑤ 《宝島Ⅱ》
2021年 33.3×24.2cm
石膏地着彩
- ⑥ 《宝島Ⅲ》
2021年 162×130.3cm
石膏地着彩

本展覧会に向けた取り組み

開催期間前

【作家の滞在制作】

開催までの約2ヶ月間、ヘルツアートラボの約半分の面積を使用して、作家・山嵯雷蔵の滞在制作を実施（現在も続行中）。時には、近隣住民が画材や技法に関する素朴な疑問を投げかけ、作家がそれに丁寧に答えるようなシーンもあり、そうしたアーティストと地域住民との交流活性化に努める。滞在制作は4月4日（月）までの予定。

開催期間中

【EVENTs】 要予約制・定員あり。一部有料。

4/23（土）17:00～18:00 [クロストーク]

「画材から読み解くアーティスト思考」

ゲスト：小島暁夫（株式会社小島美術代表取締役）

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻を卒業。都内画材店勤務を経て2020年(株)小島美術を設立。「画材は進化もすれば無くなりもするモノ（物質）ですので、画材を論じても芸術を定義する事は出来ません。しかし、これまでの材料を見直す意識を持つ事は、美術の将来性を探る事でもあり、美術業界に携わる人間の姿勢として重要だと考えております。（株式会社小島美術 WEB サイトより部分抜粋）」

4/29（金・祝）10:00～12:00 [ワークショップ]

「日本画体験！ 自分だけの宝石/宝島」

講師：山嵯雷蔵

5/7（土）16:00～18:00 [クロストーク]

「夢と宝島」

ゲスト：中野仁詞（キュレーター／神奈川芸術文化財団）

第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（2015年）日本館、横浜トリエンナーレ2017。主な企画展に、神奈川県民ホールギャラリーにて、「日常／場違い」展（09年）、泉太郎展「こねる」（10年）、「日常／ワケあり」展（11年）、八木良太展「サイエンス／フィクション」（15年）、大山エンリコイサム展「夜光雲」（20-21年）。KAAT 神奈川芸術劇場にて、「日常／オフレコ」展（14年）、塩田千春展「鍵のかかった部屋」（16年）、「詩情の森-語り語られる空間」展（17年）、さわひらき展「潜像の語り手」（18年）、小金沢健人展「Naked Theatre-裸の劇場」（19年）、宮永亮展「KAA10」（20-21年）、富安由真展「漂泊する幻影」（21年）、志村信裕展「游動」（21年）、鬼頭健吾展「Lines」ほか。女子美術大学／東海大学非常勤講師。

●神奈川県民ホールギャラリーでの大型グループ展「ドリーム／ランド」の担当キュレーター（2022年12月公開予定。現在企画進行中）。本展作家・山嵯雷蔵も参加決定。



展覧会・イベントに関する詳細は最新情報をご確認ください。

←ヘルツアートラボ WEB サイト

プロフィール 山嵯雷蔵



【山嵯雷蔵】1991 長崎県生まれ。2014 多摩美術大学絵画学科日本画専攻 卒業。2016 多摩美術大学大学院絵画専攻日本画研究領域 修了。2020 年度末まで多摩美術大学日本画研究室助手として勤務。

主な入賞歴として、2014 年「第 6 回トリエンナーレ豊橋」入選。2016 「Dojima River Awards 2016」入選。2019 「第 8 回 Artist Group-風-大作公募展」入賞。2022 年「第 9 回郷さくら美術館 桜花賞」奨励賞受賞。現在神奈川県を拠点に制作活動中。

■略歴

- 1991 年 長崎県生まれ
- 2014 年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業
- 2016 年 多摩美術大学大学院絵画専攻日本画研究領域修了

■主な展示

【個展】

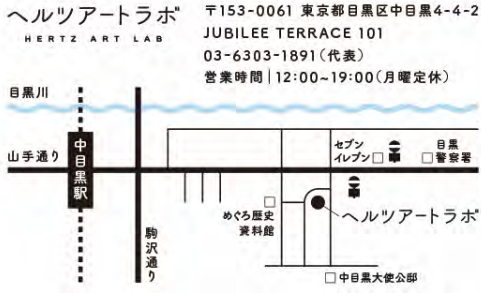

- 2013 年 個展 / Gallery 銀座フォレスト(東京)
- 2016 年 個展「-MUKURIKOKURI-」 / アートスペース羅針盤(東京)
- 2018 年 個展 「EARTHBOUND」 / アートスペース羅針盤(東京)
- 2020 年 個展 / 靖山画廊(東京)
- 2022 年 個展「宝島-upaya-」 / ヘルツアートラボ(東京)

【グループ展】

- 2014 年 新世代の日本画 6 人展 / アートスペース羅針盤(東京)
- 2015 年 現状〇原状 / 佐藤美術館(東京)
- 2017 年 渺渺展 '18 '19 '21 ※2020 年は中止 / 東京銀座画廊 美術館(東京)
折笠敬昭 山嵯雷蔵 二人展「どちらに在る」 / アートスペース羅針盤(東京)
- 2021 年 現代日本画の系譜-タマビ DNA 展 / 多摩美術大学アートテーク(東京)
- 2022 年 日本画のゆくえ～継承と断絶・模倣と創造 / 栃木県立美術館(栃木)
第 9 回郷さくら美術館 桜花賞展 / 郷さくら美術館(東京)

■受賞・入選

- 2014 年 第 6 回トリエンナーレ豊橋 入選
- 2016 年 Dojima River Awards 2016 入選
- 2019 年 第 8 回 Artist Group 風 入賞
- 2022 年 第 9 回郷さくら美術館 桜花賞 奨励賞

展覧会名	山嵯雷蔵 展 「宝島-upaya-」	
会期	2022年4月19日(火)～5月8日(日)月曜休廊	
開館時間	13:00～19:00 (入場は閉場の30分前まで)	
入場料	無料。一部有料のイベントあり。	
主催	ヘルツアートルabo	
会場	 <p>ヘルツアートルabo 〒153-0061 東京都目黒区中目黒4-4-2 JUBILEE TERRACE 101 03-6303-1891(代表) 営業時間 12:00～19:00(月曜定休)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日比谷線・東横線中目黒から徒歩14分 ○東急バス「目黒警察署前」下車徒歩1分 <ul style="list-style-type: none"> ・渋谷駅から東急バス「渋41」系統 ・目黒駅から「黒09」「中目01」系統
特設サイト	 https://hertz-art-lab.weebly.com/raizo-takarajima.html	

広報制作物 データ 一覧

ご連絡いただいた方に、以下の制作物のデータを提供いたします。
その他の画像についてもお問い合わせください。



代表作品の情報

山嵯雷蔵
《宝島 III》
2021年
162×130.3cm
石膏地着彩

お問い合わせ 展覧会担当：杉岡みなみ (hertz.art.lab@gmail.com)

TEL:03-63031891(代表) hertz.art.lab@gmail.com

*画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。 *画像の利用後、データは破棄してください。
*基本情報確認のため、一度校正をお送りください。 *掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。